

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570707174		
法人名	医療法人 仁恵会		
事業所名	グループホーム 夕陽の丘山田		
所在地	秋田県湯沢市山田字中屋敷14番地		
自己評価作成日	令和5年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者の意欲を引き出し、持っている力を発揮できる環境づくりに努めています。
 ・ユニット合同でのレクリエーションや行事に力を入れながらも、各ユニットそれぞれの特徴を活かせるよう、自由な発想を大切にし、職員も一緒に楽しんでいます。
 ・毎月の行事にも力を入れ、季節感を味わえるよう工夫をしたり、SNSにて事業所の様子を随時発信しています。
 ・季節を目や肌で感じられる自然豊かな環境にあり、食生活では旬の食材を使ったり、行事食に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は法人共通の理念を共有し、利用者寄り添い、その思いを大切にして利用者との日々の生活の中に反映させています。コロナ禍にあって地域との交流が制限される中、ユニット間の連携を図り、外出や買い物に柔軟に対応して利用者本位のサービスを提供しています。ホーム前で子供神輿の披露が再開され、町内のクリーンアップに職員が参加を続け、地域との繋がりの継続にも努めています。また、ホームで長期間過ごした利用者を家族の希望に応じて看取り支援を行って家族の信頼を得ており、それに伴う職員のメンタルケアにも取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自立と相生」の理念に基づいたサービス提供を基本とし、地域や家族との繋がりを大切にしている。	理念が日々の支援に反映されています。適切な声かけで利用者ができること、できそうなことを引き出して一緒に行い、生活の中でその環境がつくられています。取り組みの様子はホーム便りで確認できます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で地域との繋がりが薄れていますが、地域の行事に参加するなど、徐々に機会が増えている。	事業所として地域との繋がりが継続できるように取り組んでいます。床屋さんや商店に利用者と一緒に出かけ、コンサートのチケットをいただいたり野菜等の差し入れもあり、子供神輿の披露も再開されています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議を通じて、事業所の取り組みや日常生活の様子を報告し、特徴を理解して頂いている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状況や行事の報告等生活の様子を伝えている。会議で得られた意見や改善点はサービスの向上につながるようにしている。	ホームの取り組みの様子を伝え、それに対して意見をいただいています。地域の情報を得たり、水害対策について話し合っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて、取り組みを報告し、意見を頂いている。市からの相談も頂く機会があり、情報を取り合っている。	福祉事務所や包括、関係部署と必要に応じて連絡を取り、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に内部研修を行っている。身体拘束廃止委員会では、職員のストレスチェックを評価し、身体拘束や虐待のないケアに取り組んでいる。	話し合う機会を多く設けて情報を共有し、身体拘束、虐待のないケアに取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等にて制度を理解しているが、現在利用されている方はおりません。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にホームの見学・説明をして、相談等に対応している。契約時には、文書及び口頭で説明を行い、疑問や不安点がないか聞きながら手続きを行っている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	面会時や定期的に状況を報告し、要望等を伺っている。可能な限り対応できるよう努めている。	状況報告の際や介護計画の見直しの際等に意見をいただく機会をつくっています。苦情が出ることはないようですが、要望には随時対応できるように努めています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	代表者や管理者は職員ミーティングやカンファレンス等の場において、運営や職場環境・職員育成に関して職員から意見や提案を聞き、運営に反映させている。	会議で取り上げてほしいことを事前に提出してもらっている他、話しやすい環境づくりもされており、業務や建物環境の改善、より良い支援に繋げるための備品の購入等に繋がっています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、全国団体の委員会や支部役員として参画するなど、同業者と交流する機会をつくっており、研修会等を通じてサービスの質を向上するよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族やご本人、担当ケアマネより話を聞き状況の把握に努めている。傾聴しながら不安を取り除き、安心して生活できるよう努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活状況や家庭での様子を伺い、今後の生活についての不安や要望を聞くようにしている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で一緒に活動できる時間を作り、理念である「自立と相生」のもと、共に支え合う関係を築いている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族を利用者を支える一員として認識し、面会の協力や利用者様に関する情報を提供して頂いている。体調の変化についても随時、報告と相談をしている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないよう、要望に応じて友人・知人等の面会に対応している。毎月のお便り等で様子を伝え、家族との繋がりを大切にしている。	コロナの影響はあったものの、家族の要望にも応え、できる限りの支援に努めています。家族のみならず、近所の方々の協力も得られています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の特徴や性格等を把握し、お互いが協力しながら、手伝いやレクリエーションが行える環境づくりに努めている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談を受けたり、必要に応じて支援を継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に直接聞いたり、何気ない普段の会話やご家族から情報を頂き、望む暮らしや意向の把握に努めている。	普段の会話から、或いはテレビの内容を意向確認の参考にしています。特に入浴時の会話から得られるものも多く、大切な時間となっています。情報は記録に残し、生活に活かせるように取り組んでいます。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他事業所より情報提供を頂いたり、ご本人・ご家族から聞いて情報把握に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を踏まえて、職員からの意見やアイデアをまとめ、介護計画書を作成している。	その人毎の支援項目別に日々の記録をしており、効率の良いモニタリングに繋がっています。担当職員が中心となってモニタリングを行い、家族にも確認していただいた上で介護計画を作成しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録やご本人からの訴えや言動を詳細に記録するように努め、職員間で共有している。モニタリング時に計画書の見直し等に活かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前に活用していた資源や、事業所周辺の資源の把握と新たに活用が出来るような資源等の情報を得るように努めている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医があれば継続し、受診ができるよう支援している。かかりつけ医が遠方の場合、ご家族にも受診の協力を頂いている。	入居前からのかかりつけ医で受診しており、家族と内容を共有しています。家族が対応する場合は状況がわかるものを持参していただいています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を締結している老健の看護師の定期訪問の他、状況に応じて指示をもらい適切な受診につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に担当看護師と連絡を取り、情報交換をしている。退院時には、医師や看護師からのアドバイスやサマリーを通じて情報を得ている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームの指針、医療面でのできること、できないことを説明している。また、ACPを作成し今後の対応を確認している。	医師の確保ができ、家族の希望もあって終末期の支援が行われています。経験が少なかつたこともあって職員に不安はあったようですが、家族の意向を汲み取り、医師、職員が連携して取り組みました。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて急変時の対応の手順等を学んでいる。毎日AEDの点検、マニュアル等を準備し、落ち着いて対応できるよう備えている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備え、隣接する施設と協力しながら訓練を行っている。	両ユニットに1ヶ所づつ駐車場に出られる掃き出し窓を取り付けることになり、避難口が玄関だけという不安が解消されます。隣接施設に避難する際の通路を確保するために、冬季の除雪の仕方を検討しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり違うことを理解した上で接しており、必要であればユニット会議や日々のミーティングの中で対応について話し合う等、職員が共通認識を持って支援するよう心掛けている。	利用者の性格や入居に至るまでの生活等、一人ひとりの理解に努め、その人に合った対応を心がけています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを尊重し、おしゃれや身だしなみの支援をしている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできることを活かし、一緒に食事作りから片付けを行っている。旬の食材を使った料理や食べたい物を聞いて献立に取り入れられている。	食事に関する一連の作業に利用者は積極的に参加しています。畑の野菜を収穫し、時には弁当を注文し、行事や季節に合わせたお菓子づくり等も一緒に行い、食べる楽しみに繋げています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し、把握に努めている。不足時は、ご本人の好みに合った食事や水分を提供している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分での口腔ケアが不十分な方には、職員が声がけ、仕上げ磨きを行っている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を誘導している。その人に合った排泄用品を使用し、快適に過ごせるように支援している。	適切な誘導で失敗の減少に繋げる等、チェック表を活用して一人ひとりに合った支援が行われています。製品によっては利用者自身で対応できる排泄用品もあり、できる力を活かし、状況に応じた支援を行っています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩等体を動かしている。便秘予防として、水分摂取や乳製品を提供している。個人でヤクルトを購入し、継続的に飲んでいる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	要望に合わせて一人ひとりが、ゆっくり入浴できるように、入浴時間やお湯の温度等、好みを聞きながら対応している。	季節に合わせて菖蒲湯、柚子湯等で楽しんでいただきながら、1日おきに入浴しています。次の日も入りたいと希望されることもありますが、状況をみながら柔軟に対応しています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を多くし、夜間の安眠につながるように努めている。いつでも自由にくつろげるソファや畳のスペースを設けている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり服薬情報をまとめたファイルを活用している。服薬の変更時は、医師やかかりつけの薬局から情報提供してもらい、職員間で共有している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできる力を活かし、食事作りや家事仕事を行っている。毎月の行事も工夫し、皆が楽しめるようにしている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策をしながら、外出する機会を徐々に増やしている。天気の良い日は、ホーム周辺の散歩やドライブ、買い物等気分転換を図っている。	声をかけてホームの所用に付き合ってもらったり、個別の外出支援にも応えることができるよう配慮しています。戸外での活動の様子がホーム便りに掲載されており、ホームに閉じこもることのない支援が行われています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に応じて、現金を自分で管理している方もいる。一緒に買い物に出掛け、好きな物を選び、支払いできるよう支援している。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気・光・温度調整を行い、快適に過ごせるよう配慮している。廊下には季節ごとの飾り付けや行事の写真を貼り、楽しんで頂いている。	食後はホールで休む方もいて、それぞれの過ごし方を大切に、利用者にとって居心地の良い環境を整えています。利用者と一緒に掃除をし、清潔感のある空間となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置きくつろげる場所や、気の合う利用者同士が談笑できるよう配慮している。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用していたタンスや備品等を持って来て頂き、ご自分の部屋として馴染むよう家族の写真等も飾っている。	入居時に担当職員が家族と一緒に生活環境を整えおり、家族写真等、多くの物で室内を飾っています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて、福祉用具を導入する等、安全に過ごせる環境づくりに努めています。また、できない部分は、支援するも過剰な介助にならないよう努めている。		